

# うおぬま国際交流協会設立準備会ニュース No. 1

2001年12月25日発行

## 12月19日、設立準備会発足 来年5月設立を目指して活動開始

2001年12月19日(水)午後7時半より、大和町公民館において2回目の「うおぬま国際交流協会」設立有志の会が開催され、設立準備会を発足させました。当日は、国際大学の市之瀬富海雄事務総長から、ご自身のアメリカ留学の体験を通じた留学生と地域社会のサポートの必要性についてお話いただき、また、準備会のアドバイザーをお引受けいただきました。

準備会では次のことを決めました。なお、次回の準備会は来年1月下旬に開催します。

### 1. 準備会の構成と運営

準備会のメンバーは10月11日の第1回打合せ会参加者と12月19日の出席者として、現在23名です。準備会のメンバーは加入・退会自由ですので、皆さまの回りに参加希望者がいらっしゃいましたら、お名前、住所、電話番号を世話人までお知らせください。次回の会議通知をお送りします。なお、当面の活動は、世話人代表/権平康子(浦佐天王町)、世話人/武田里子・山下委希子(国際大学学生センター)の3名が中心となって進め、必要に応じて運営委員ならびにアドバイザーを補強することにいたします。

### 2. (財)中島記念国際交流財団助成金の受給決定

国際大学が(財)中島記念国際交流財団(受託事務は(財)日本国際交流協会が担当)に申請していた「地域と留学生の交流支援整備事業(魚沼地区)」が承認され、3年間で1500万円の助成金交付が決定しました。この事業計画の一環として、「うおぬま国際交流協会」を設立します。同会の事務室は、国際大学第3学生寮1階にある「カウンセリングオフィス」とします。これは国際大学から無償で「うおぬま国際交流協会」に貸与されるものです。

### 3. 国際交流協会の活動

日本の国際化は、モノや情報の段階から本格的なヒトの国際化の段階を迎えています。人間同士が交流するためには、異なるものを受け止める寛容さと、その違いがどこから来るのかをお互いに知ろうとする姿勢が大切です。現在、国際大学には世界50カ国からやってきた約240名の留学生が学んでいます。仏教徒をはじめイスラム教徒、キリスト教徒もいます。肉食主義の人、豚肉あるいは牛肉を食べてはいけない人もいます。地域の商店からは「留学生は値切るから嫌いだ」という苦情が寄せられています。これは、「値段は交渉して決める」文化を背景にした国や地域の出身者がいるためです。相互に理解し合うためには、留学生/外国人は日本の文化、慣習について学ぶ必要があり、同時に私たちにも、世界の多様性について理解しようとする姿勢が求められます。

「うおぬま国際交流協会」は、国際交流活動を実践している団体・個人、そして、国際交流活動にこれから参加しようとする方々と留学生/外国人がともに集う「場」となることを目指します。また、これまで不十分であった国際大学と地域との話し合いの場が、交流協会を通じてさまざまなレベルで活発化し、全体として魚沼地域の国際化に役立てたいと考えています。

準備会では、国際交流協会の活動原則と活動内容について、次のことを確認しました。

## 活動の原則

1. 交流協会は、魚沼地域における国際交流活動を通して、日本人と外国人の相互理解と信頼を深め、共に暮らしやすい地域社会の実現に寄与することを目的とします。
2. 交流協会は、企画が参加者によってより豊かなものになることを歓迎し、企画者が参加者に学んでいくことを大切にします。
3. 交流協会は、「イベント的国際交流活動」と「個人的交流」を車の両輪とし、現在活動しているさまざまなグループの自主的かつ自発的活動を支援します。
4. 交流協会は、国際交流活動の現場で実際に活動する会員を中心とし、活動の理念はアドバイザー制によって補完します。
5. 現状の「外国人」は9割以上が国際大学関係者ですが、将来的に予想される地域の多文化化に向け、交流協会の活動成果は積極的に社会還元します。

## 活動内容

1. 留学生/外国人の日本語学習支援と日本人の多言語学習支援
2. 異文化の学習と体験のための企画と運営
3. ホストファミリーの登録とホームステイの計画と実施
4. 留学生/外国人に対する各種生活相談
5. バザーの企画と運営
6. 地域の国際交流行事の実施と協力
7. 会員のための各種研修の企画と運営
8. 広報・情報紙の編集と発行
9. 他の国際交流機関との連携
10. その他会員が必要と認める活動

## 4. 2002年1月から5月までの活動計画

### (1) 広報活動と会員募集

- 「交流協会だより」(仮称)発行(名称は1月の会議で決めます)

準備会会員申込書を兼ねた第1号を1月下旬に発行します。準備会会員は5月の正式発足時に正式会員となります。入会は随時受け付けますので、知人、友人に入会をお勧め下さい。

「交流協会だより」1号は、各自治体の協力を得て大和町、小出町、六日町、塩沢町、湯之谷村に全戸配布すると共に、広報媒体として各自治体の広報紙を積極的に活用します。大和町には2号目以降も全戸配布を継続。準備会会員となり年会費3000円(初年度のみ2002年1月～2003年3月)を納入された方へは、「交流協会だより」他、各種案内を直接郵送します。

- 交流協会ホーム・ページ(和英併記)の作成

魚沼情報サービス(代表：対馬俊彦氏)に製作委託し、5月の正式発足時の公開を目指します。ホームページは和英併記とし、卒業後の留学生とうおぬま交流協会との関係を維持、発展させるツールとします。コンテンツは、会員相互の連絡、イベント情報、生活情報、活動内容の広報など。1月から具体的な内容の検討に入りますので、ご意見ご要望などお寄せください。

### (2) 多言語化プロジェクト

来年1月から、大和町役場、大和町商工会、大和町病院と国際大学学生との共同プロジェクトとして、行政サービスの案内や各種申請書類、病院の問診表、商品名やメニューなどの英訳を行います。これによって、日本語が分からない留学生/外国人の暮らしやすい環境づくりを進めると共に、各機関の国際化に役立ちたいと考えています。将来的には地域社会のニーズをみて、

中国語や韓国語などを加え多言語化していくことを検討します。

### (3)日本語サポートプロジェクト

外国人が日本で暮らす上で一番苦勞しているのが日本語学習の機会の不足です。日本語学習が必要な外国人は、留学生だけでなく、留学生の家族、外国人教員とその家族、さらに国際大学関係者以外の外国人(国際結婚の増加)と多様です。交流協会では留学生/外国人への日本語サポートを優先的な事業とします。ボランティア体制の整備によって順次プログラムを充実させていきますが、当面、次のプログラムを実施します。皆さまからは「できるコトを、できるヒトが、できるトキに」ご参加いただければと思います。

- 「日本語会話パートナー」:

国際大学の留学生は、学位を取得するために日本語能力は必要ありません。しかし、日本の文化社会を理解したり、地域の人々との交流を深めるためには、日本語によるコミュニケーション能力がかかせません。

留学生の約 3 分の 1 は日本語の授業を受講していますが、その人たちは授業で習った会話の練習の機会を、他の人たちは生活会話を学べる機会を求めています。日本語会話パートナーは、日本語で話すことが目的ですから、英語が苦手な方も大歓迎です。

- 「日本語ボランティア養成講座と日本語初級講座」:

来年春を目標に「生活日本語」を学ぶための「日本語初級講座」を開講したいと考えています。そのための講師養成を目的に、来年 2 月から 3 月に日本語を教えることに興味のある方、日本語ボランティアに登録を希望する方を対象に「日本語ボランティア養成講座」を開講します。この講座では、日本語を教えるための基礎知識と教授法の基礎を勉強します。

プログラムと教材開発については、日本語教育の専門家や先進的な活動をしている他団体の協力を得ながら進めます。

- 「日本語サポート/生活相談」:

留学生の中には家族と一緒にアパートに住み、保育所や小学校に子どもたちを通わせている者もいます。そうした留学生は、役場や保育所、小学校から届く文書が読めなくて困っています。他にも日本語ができないためにいろいろな手続ができなかったり、締め切りに間に合わなかったりすることがあります。

「日本語サポート/生活相談」は、留学生/外国人で日本語ができなくて困っている人をサポートするプログラムです。皆さまにはこのプログラムを通じて、日頃勉強している英語を実践的に活用していただければと思います。

このプログラムには会議出席者から、「中途半端な語学力では相談など受けられない。文化背景の異なる人に日本のシステムを理解してもらうには相当の語学力が必要だ」、というご意見がありました。ご心配はもっともです。でも、語学だけできても「サポート」はできません。困っている人を見て「手助けしてやりたい」と思うことは、語学力とは別に、人間としての共感能力が求められるように思います。このプログラムを通じて、サポートする人もされる人も一緒に「学ぶ」機会にさせていただければと思います。「わからない」こと「説明できなかったこと」を持ち寄り、ボランティア同士の情報交換や研修会も設けたいと思いますので、まず、第一歩を踏み出してみようという方を募集します。

相談されて分からなかったことについては、学生センターがバックアップします。また、留学生には、「(1)金銭の貸借、(2)保証人の依頼、(3)滞在ビザに関する問題、(4)仕事の紹介」はこのサポートプログラムの内容に含まないことをオリエンテーションします。

#### (4)ホームステイ・プログラム

ホームステイは、ホストファミリーを通じて日本の文化や習慣を体験でき、「普段着の日本人」に接する機会となるため、留学生からの要望が高いプログラムの一つです。ホームステイは、文字どおり「ステイ」、つまり「宿泊」を伴います。期間は、1泊から1年程度のものまでさまざまです。また、宿泊せず、週末などに家庭に招待していただき、食事をしたり、一緒に時間を過ごす交流の形をホームビジットと呼びます。

日本では、ホストファミリーはお金持ちや海外経験のあるような特別の人がするものというイメージがあるようです。しかし、ホームステイは、一般の市民による草の根交流が原点です。何よりも大切なことは「やってみたい」という気持ちと「人との出会いを楽しもう」という気持ちです。ホストファミリーを引き受けるのに「英語ができること」は、絶対条件ではありません。今年9月、国際大学を訪問したヨーロッパの大学職員のホームステイを実施しましたが、参加者からは「英語の全くできないおばあちゃんとの山歩き」や、畑から取ってきた野菜で作ったお料理や、ちまき作りの思い出が楽しく報告されました。

体制が整い次第、ホストファミリーの登録制度を立ち上げます。

#### (5)研修プロジェクト

交流協会の設立にあわせて、国際交流の理念や異文化コミュニケーションの理論、国際交流活動の先進事例を学ぶ研修プログラムを企画し実施します。当面次のような研修会を考えています。

研修会テーマ(案)	予定講師/協力依頼先(案)
くにたち地域国際交流会活動の実践	一橋大学 横田雅弘教授
異文化コミュニケーション入門講座	南山大学 近藤祐一助教授
日本の留学交流—国際大学の役割	日本国際教育協会留学情報センター所長 堀江学氏
新潟県の国際交流活動の実践と課題	新潟県国際交流協会

また、2002年2月1日から3月31日の間に実施する先進地視察希望者を1月中旬に公募します。応募資格者は準備会会員と国際大学職員とします。この視察は、地域と留学生との先進的な国際交流活動を行っている団体を調査し、関係資料を収集して、うおぬま国際交流協会の活動に反映させることを目的とします。募集要項は別途作成しますが、実施期間、訪問先、調査目的、費用概算を内容とする計画書提出していただき、予算の範囲内で派遣者(グループ)を1月下旬に決定します。採用条件は、調査実施後2週間以内に報告書を提出すること、並びに視察終了後の検討会への参加です。

#### (6)設立記念行事

2002年5月中旬を予定しています。行事の内容については、国際大学ならびに会員の皆さまのご意見を伺いながら具体化したいと思います。

\* 準備会へのご意見ご希望は下記世話人宛ご連絡ください。また、交流会事務室「国際交流サロン」は1月中旬にはオープンしますのでお立ち寄りください。

##### 「うおぬま国際交流協会」設立準備室

住所 〒949-7277 新潟県南魚沼郡大和町穴地新田 777 番地  
国際大学学生センター内 (Fax:0257-79-1180)

電話/Email: 権平 康子 : 0257-77-2511 (自宅)  
武田 里子 : 0257-79-1439/stakeda@iuj.ac.jp  
山下委希子 : 0257-79-1430/ikiko@iuj.ac.jp